

保育者の専門性の獲得に関する調査研究 ～幼稚園教諭と保育所保育士がもつ意識を中心に～

櫻木 真智子*¹ 中野 真紀子*² 藪中 征代*³ 塚本 美知子*⁴

A Study on the Acquisition of Childcare Special Skills: Focus On the Awareness of Kindergarten Teachers and Nursery School Teachers

SACRAGI, machiko, NAKANO, makiko, YABUNAKA, masayo and TSUKAMOTO, michiko

要旨

本研究は、保育者の専門性の獲得について幼稚園教諭と保育所保育士、合計811名がそれぞれどのようにとらえているか、その相違点と共通点を明らかにすることを目的としている。調査は質問紙を用い、全78の設問項目に対する回答を得た。すべての項目について養成校で学ぶ、養成校と保育現場双方で学ぶ、保育現場で学ぶ、保育者には必要ないの4つの選択肢から選ぶという形式をとった。

全体の傾向として養成校で土台を作り保育現場で学びながら育てていくという意識が、幼稚園教諭と保育所保育士に共通していた。両者の違いをみると、幼稚園教諭は養成校に期待する意識が高く、保育所保育士は保育現場で育てるという意識が高かった。これらは、幼稚園では卒業直後から即戦力としての実践力を求められるのに対して、保育所では保育が長時間に及ぶため、求められる対応力が多岐にわたり、保育実践を通して学ぶ専門性が多いことが理由として考えられる。

キーワード

保育者の専門性、幼稚園教諭、保育所保育士、養成校

Abstract

This study reveals how kindergarten and nursery school teachers understand the acquisition period of childcare specialty, considering the similarities and differences between them. A total of 811 teachers participated in the questionnaire survey, which consisted of 78 questions. To answer each item, the participants could choose from four choices, namely, "learned in training school," "learned in both training school and preschool," "learned in preschool," and "unnecessary for preschool teachers."

The findings showed that both kindergarten and nursery school teachers possessed a general awareness of learning the foundations of childcare specialty at a training school and fostering skills through on-site learning at a preschool. Of the two groups, kindergarten teachers tended to expect more from training schools, whereas nursery school teachers tended to foster more valuable skills on-site. Skills learned by kindergarten teachers must be put into practice immediately following graduation. In contrast, a longer duration of nursing and more diverse skills on correspondence are required for nursery teachers. Hence, nursery teachers learn more skills in childcare specialty during their first time on-site as teachers.

Key words

childcare specialty, kindergarten teacher, nursery school teacher, training schools

I はじめに

私立大学教員の授業改善白書(2014)では、教育現場での問題認識として、学生の学修に関する問題と教員自身に関する問題が挙げられている(公益法人私立大学情報協会平成26年5月)。学修に関する問題では、授業には参加するが自分から学び考える積極性が見られないことや、学修に必要な基礎学力の不足などが挙げられている。また、教員に関しては、学生の基礎学力を補完する取り組みや主体性を引き出す工夫、双方向型の指導等が挙げられている。これは、短期大学にもいえることである。

聖徳大学短期大学部保育科(以下、本学と記す)では、そうした問題・課題をふまえ、保育者養成の立場でどのような専門性を身に付けた保育者を養成するのかを基本にカリキュラムの見直しや授業改善に取り組んできた。今、子育て支援の公共施設とそこでの実践に携わる職能は、現代社会を維持する新たな「専門職」として確立せざるを得なくなっている状況(小川, 2011)から、保育者養成校には、前述の学生の実情に加え、時代の要請を認識した指導も必要となる。

「保育者の専門性」について、全国社会福祉協議会・全国保育士会(2007)は、①専門職としての基盤、②専門的価値・専

*1: 聖徳大学短期大学部保育科・准教授 / *2: 聖徳大学短期大学部保育科・教授
*3: 聖徳大学大学院教職研究科・教授 / *4: 聖徳大学短期大学部保育科・教授

門的役割, ③保育実践に必要な専門的知識・技術, ④組織性を挙げている。専門性についての先行研究は多く(大津, 2010; 石黒, 2009), 櫻木ら(2014)も保育者の専門性の獲得について、保育者がどのようにとらえているかを報告している。また、専門性の枠組みについては、従来の専門職像として技術的熟達者の枠組みからとらえるのか、新たな専門職像として反省的実践家の枠組みからとらえるのか、その枠組みを明確にする必要も指摘されている(全国保育士養成協議会, 2014)。こうしたことから、視野を広げて考えていくことが重要となろう。さらに保育者養成校には、愛情と使命感をもって対応できる人材や、卒業後に自身の力を発揮し、働くことに喜びを感じて自己のアイデンティティを確立し学び続ける保育者を養成することも求められる。養成校での学修は、完成教育ではなく、養成期間内では完成しえないもの、卒業後も学び続けるものとしてとらえられている(全国保育士養成協議会, 2008)ように、筆者らも、保育職に就いて、その経験の中から培われていくものも多くあるととらえている。保育現場の保育者が専門性の獲得をどのようにとらえているのかを明らかにしていくことは、本学のカリキュラムの改善にも活かすことができる。また、幼稚園と保育所のそれぞれの保育者が専門性をどのようにとらえているのか、その相違点を知ることは学生指導の充実にも欠かせない。そこで本研究では、幼稚園教諭と保育所保育士(以下、保育士と記す)が「保育者の専門性の獲得」をどのようにとらえているかについて明らかにすることを目的とする。

II 方法

1. 調査対象

本学が位置する千葉県松戸市周辺の幼稚園と保育所に勤務する保育者828名のうち欠損が見られたデータを削除したため、保育者811名(幼稚園教諭350名, 保育士461名。所属: 公立幼稚園77名, 私立幼稚園273名, 公立保育所284名, 私立保育園177名。男性27名, 女性780名, 不明4名)を対象とした。保育者の平均年齢は39.7歳($SD=12.6$), 幼稚園教諭の平均年齢は37.7歳($SD=12.3$), 保育士の平均年齢は41.4歳($SD=12.5$)であった。保育経験年数の平均は、16.5年($SD=12.1$), 幼稚園教諭の保育経験年数の平均は、14.1年($SD=11.2$), 保育士の保育経験年数の平均は、18.4年($SD=12.4$)であった。

2. 調査内容および調査手続き

全国保育士養成協議会(2013)で用いられている項目をもとに質問紙を作成した。調査項目は「保育者としての態度の獲得」29項目(表1参照), 「専門的知識・技術の獲得」63項目とした。専門的知識・技術の獲得に関する63項目の内訳は、発達理解に関する3項目(表2-1参照), 保育にかかわる基礎的事項に関する11項目(表2-1参照), 子どもの健康と生活に関する10項目(表2-2参照), 保育内容に関する9項目(表2-2参

照), 計画・評価に関する14項目(表2-3参照), 特別の配慮が必要な子どもに関する16項目(表2-4参照)である。それぞれの調査項目は4つの時期(「保育者養成校が中心となって育てていく」(以下「養成校中心」と記す), 「保育者養成校で土台を作り, 保育現場で学びながら育てていく」(以下「養成校・保育現場双方」と記す), 「保育現場中心に育てていく」(以下「保育現場中心」と記す), 「保育者としてさほど必要と思わない」)のどの時期までに育つことが求められるかを選択するという形式をとった。

平成26年2月に質問紙を各園に郵送し、留め置き法(約3週間)にて調査を実施した。回収にあたっては、個人情報保護のため、各保育者が調査用紙に記入後、各園用封筒にまとめ郵送での返却を依頼した。

倫理的配慮としては、質問紙の表紙部分において、アンケートは匿名であり、調査結果は統計的に処理されるため個人名は特定されないこと、調査票の記載事項および集計結果については本研究の目的以外には使用しないこと、アンケートへの回答は自由意思によるものであること、を明記し、文書で説明した。なお、調査実施に関わる配慮事項等は、日本発達心理学会(2000)の倫理基準に準じた。本研究の手続きは、聖徳大学ヒューマンアカデミー倫理審査委員会の審査を受けた。

III 結果

統計分析はすべてSPSS20.0 for Windowsを用いて行った。

1. 保育者としての態度の獲得時期に対する意識

保育者としての態度の獲得時期に対する意識において、幼稚園教諭と保育士との間に偏りがあるかどうかを検討するために、 χ^2 検定を行った。その結果、有意な偏りが見られた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析(Haberman, 1974)を行った(表1-1, 表1-2)。表1-1, 表1-2にみられるように29項目のうち4項目で幼稚園教諭は、「養成校・保育現場双方」の割合が高かった。逆に、保育士は、「保育現場中心」の割合が高いことが明らかとなった。これより、幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれが認められた。

2. 保育者としての専門的知識・技術の獲得時期に対する意識

保育者としての専門的知識・技術の獲得時期に対する意識において、幼稚園教諭と保育士との間に偏りがあるかどうかを検討するために、 χ^2 検定を行った。その結果、有意な偏りが見られた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。

(1) 発達理解(表2-1参照)

表2-1にみられるように、幼稚園教諭は「養成校中心」の割合が高く、保育士は「養成校・保育現場双方」の割合が高い。乳児期から児童期の発達の理解について幼稚園教諭は、養成校で育て卒業するまでに獲得すると考えている保育者が多く、保

表 1-1 幼稚園教諭と保育士がもつ保育者としての態度の獲得に対する意識

		1	2	3	4	X ² (df=3)
1：使命感を持って子どもと接する	幼稚園 調整済み残差	60 (48.8%) 1.4	236 (41.9%) -1.1	54 (43.2%) 0.0	0 (0.0%) 0.0	1.94
	保育所 調整済み残差	63 (51.2%) -1.4	327 (58.1%) 1.1	71 (56.8%) 0.0	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
2：子どもの成長に喜びを感じる	幼稚園 調整済み残差	18 (47.4%) 0.5	154 (40.7%) -1.3	178 (45.1%) 1.1	0 (0.0%) 0.0	1.76
	保育所 調整済み残差	20 (52.6%) -0.5	224 (59.3%) 1.3	217 (54.9%) -1.1	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
3：他者に愛情や思いやりをもって接する	幼稚園 調整済み残差	97 (45.3%) 0.7	200 (42.4%) -0.5	53 (43.1%) 0.0	0 (0.0%) -1.2	2.05
	保育所 調整済み残差	117 (54.7%) -0.7	272 (57.6%) 0.5	70 (56.3.9%) 0.0	2 (100%) 1.2	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
4：家事や料理・洗濯など、自らの生活体験を活かした保育を行う	幼稚園 調整済み残差	86 (44.3%) 0.4	158 (43.2%) 0.0	76 (41.1%) -0.6	30 (45.5%) 0.4	0.58
	保育所 調整済み残差	108 (55.7%) -0.4	208 (56.8%) 0.0	109 (58.9%) 0.6	36 (54.5%) -0.4	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
5：保育者自身の豊かな遊びの体験を保育に活かす	幼稚園 調整済み残差	81 (45.3%) 0.6	220 (43.1%) 0.0	49 (40.5%) -0.6	0 (0.0%) -0.9	1.43
	保育所 調整済み残差	98 (54.7%) -0.6	290 (56.9%) 0.0	72 (59.5) 0.6	1 (100%) 0.9	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
6：保育者自身の自然に触れ合う体験を保育に活かす	幼稚園 調整済み残差	83 (47.7%) 1.4	211 (42.4%) -0.6	55 (39.9%) -0.9	1 (100%) 1.1	3.52
	保育所 調整済み残差	91 (52.3) -1.4	287 (57.6%) 0.6	83 (60.1%) 0.9	0 (0.0%) -1.1	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
7：保護者からの信頼を得ることができる	幼稚園 調整済み残差	14(60.9%) 1.7	148(47.9%) 2.1	188(39.2%) -2.7	0 (0.0%) 0	8.75*
	保育所 調整済み残差	9(39.1%) -1.7	161(52.1%) -2.1	291(60.8%) 2.7	0 (0.0%) 0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
8：保護者に子どもの様子を説明する	幼稚園 調整済み残差	13 (56.5%) 1.3	146 (45.3%) 1.0	191 (41.0%) -1.4	0 (0.0%) 0.0	3.20
	保育所 調整済み残差	10 (43.5%) -1.3	176 (54.7%) -1.0	275 (59.0%) 1.4	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
9：状況に応じた柔軟な態度で保育を行う	幼稚園 調整済み残差	11 (50.0%) 0.7	167 (45.5%) 1.2	172 (40.9%) -1.4	0 (0.0%) -0.9	2.91
	保育所 調整済み残差	11 (50.0%) -0.7	200 (54.5%) -1.2	249 (59.1%) 1.4	1 (100%) 0.9	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
10：子どもや保護者に明るく元気にかかわる	幼稚園 調整済み残差	71 (41.5%) -0.5	173 (42.7%) -0.3	106 (45.5%) 0.9	0 (0.0%) -1.2	2.26
	保育所 調整済み残差	100 (58.5%) 0.5	232 (57.3%) 0.3	127 (54.5%) -0.9	2 (100%) 1.2	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
11：子どもや保護者に誠実にかかわる	幼稚園 調整済み残差	45 (41.3%) -0.4	181 (43.9%) 0.5	124 (42.9%) -0.1	0 (0.0%) -0.9	1.02
	保育所 調整済み残差	64 (58.7%) 0.4	231 (56.1%) -0.5	165 (57.21%) 0.1	1 (100%) 0.9	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
12：子どもに安心感を与えるような対応ができる	幼稚園 調整済み残差	27 (38.0%) -0.9	220 (45.1%) 1.4	103 (40.9%) -0.9	0 (0.0%) 0.0	2.03
	保育所 調整済み残差	44 (62.0%) 0.9	268 (54.9%) -1.4	149 (59.1%) 0.9	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
13：表情豊かに自分の気持ちを伝える	幼稚園 調整済み残差	96 (42.5%) -0.2	193 (43.0%) -0.1	60 (44.8%) 0.4	1 (50.0%) 0.2	0.23
	保育所 調整済み残差	130 (57.5%) 0.2	256 (57.0%) 0.1	74 (55.2%) -0.4	1 (50.0%) -0.2	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
14：保育者集団の中でリーダーシップを発揮する	幼稚園 調整済み残差	38 (50.0%) 1.3	146 (46.5%) 1.5	159 (39.1%) -2.4	7 (50.0%) 0.5	5.92
	保育所 調整済み残差	38 (50.0%) -1.3	168 (53.5%) -1.5	248 (60.9%) 2.4	7 (50.0%) -0.5	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
15：細かな出来事や子どもの変化にも気づけるような注意力をもった保育ができる	幼稚園 調整済み残差	24 (43.6%) 0.1	202 (44.8%) 1.1	124 (40.7%) -1.1	0 (0.0%) 0.0	1.27
	保育所 調整済み残差	31 (56.4%) -0.1	249 (55.2%) -1.1	181 (59.3%) 1.1	0 (0.0%) 0.0	

**p<.01, *p<.05

1：養成校中心， 2：養成校・保育現場双方
3：保育現場中心， 4：保育者としてさほど必要と思わない

表 1-2 幼稚園教諭と保育士がもつ保育者としての態度の獲得に対する意識

		1	2	3	4	X ² (df=3)
16: チームワークを意識して保育する	幼稚園 調整済み残差	37 (42.5%) -0.1	151 (43.1%) 0.0	162 (43.3%) 0.1	0 (0.0%) 0.0	0.02
	保育所 調整済み残差	50 (57.5%) 0.1	199 (56.9%) 0.0	212 (56.7%) 0.0	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
17: 保育者としての適切な行動規範を子どもに示すことができる	幼稚園 調整済み残差	82 (52.2%) 2.6	203 (43.7%) 0.3	65 (34.4%) -2.8	0 (0.0%) 0.0	11.2**
	保育所 調整済み残差	75 (47.8%) -2.6	262 (56.3%) -0.3	124 (65.6%) 2.8	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
18: 保育者をはじめ身近な大人に対して、適切なコミュニケーションをとる	幼稚園 調整済み残差	122 (42.4%) -0.3	177 (44.6%) 0.8	51 (40.8%) -0.6	0 (0.0%) -0.9	1.45
	保育所 調整済み残差	166 (57.6%) 0.3	220 (55.4%) -0.8	74 (59.2%) 0.6	1 (100%) 0.9	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
19: 個と集団の関係をふまえて子どもにかかわる	幼稚園 調整済み残差	27 (41.5%) -0.3	230 (46.0%) 2.1	93 (37.8%) -2.0	0 (0.0%) 0.0	4.59
	保育所 調整済み残差	38 (58.5%) 0.3	270 (54.0%) -2.1	153 (62.2%) 2.0	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
20: 保育の中で並行して複数のことができる	幼稚園 調整済み残差	17 (41.5%) -0.2	119 (43.8%) 0.2	209 (42.7%) -0.3	5 (55.6%) 0.8	0.69
	保育所 調整済み残差	24 (58.5%) 0.2	153 (56.2%) -0.2	280 (57.3%) 0.3	4 (44.4%) -0.8	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
21: 身の回りのモノの特性を考慮して環境構成や援助を行うことができる	幼稚園 調整済み残差	23 (37.7%) -0.9	228 (48.7%) 3.7	99 (35.23%) -3.3	0 (0.0%) -0.9	15.1**
	保育所 調整済み残差	38 (62.3%) 0.9	240 (51.3%) -3.7	182 (64.8%) 3.3	1 (100%) 0.9	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
22: 子どもの動きや人間関係などを多面的に理解する	幼稚園 調整済み残差	33 (46.5%) 0.6	211 (44.1%) 0.7	106 (40.5%) -1.1	0 (0.0%) 0.0	1.29
	保育所 調整済み残差	38 (53.5%) -0.6	267 (55.9%) -0.7	156 (59.5%) 1.1	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
23: 子どもを引きつける魅力的な表現をする	幼稚園 調整済み残差	65 (48.9%) 1.5	231 (40.2%) -2.6	52 (51.5%) 1.8	2 (66.7%) 0.8	7.29
	保育所 調整済み残差	68 (51.1%) -1.5	343 (59.8%) 2.6	49 (48.5%) -1.8	1 (33.3%) -0.8	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
24: 子どもの目線に立って物事を考え、保育を行うことができる	幼稚園 調整済み残差	23 (6.6%) -0.9	228 (65.1%) 3.7	99 (28.3%) -3.3	0 (0.0%) 0.0	15.1**
	保育所 調整済み残差	38 (8.2%) 0.9	240 (52.1%) -3.7	182 (39.5%) 3.3	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
25: 子どものしぐさ、表情、ことばから内面を読み取る	幼稚園 調整済み残差	14(36.8%) -0.8	213 (45.8%) 1.8	123 (39.9%) -1.4	0 (0.0%) 0.0	3.25
	保育所 調整済み残差	24 (63.2%) 0.8	252 (54.2%) -1.8	185 (60.1%) 1.4	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
26: 常に子どもの最善の利益を意識した保育をすることができる	幼稚園 調整済み残差	26 (39.4%) -0.7	196 (40.8%) -1.6	122 (47.3%) 1.6	6 (85.7%) 2.3	8.40*
	保育所 調整済み残差	40 (60.6%) 0.7	283 (59.2%) 1.6	136 (52.7%) -1.6	1 (14.3%) -2.3	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
27: 子どもの状況を読み取り、必要な場面で援助をする	幼稚園 調整済み残差	10 (47.6%) 0.4	185 (45.1%) 1.1	155 (40.8%) -1.3	0 (0.0%) 0.0	1.68
	保育所 調整済み残差	11 (52.4%) -0.4	225 (54.9%) -1.1	225 (59.2%) 1.3	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
28: 保育の中で課題を設定して実践に取り組む	幼稚園 調整済み残差	36 (54.5%) 1.9	189 (42.4%) -0.5	125 (41.8%) -0.6	0 (0.0%) 0.0	3.82
	保育所 調整済み残差	30 (45.5%) -1.9	257 (57.6%) 0.5	174 (58.2%) 0.6	0 (0.0%) 0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
29: 子ども同士や子どもと保護者のかかわりを見守り、関係づくりを援助する	幼稚園 調整済み残差	6 (46.2%) 0.2	126 (43.8%) 0.3	218 (42.7%) -0.3	0 (0.0%) 0.0	0.12
	保育所 調整済み残差	7 (53.8%) -0.2	162 (56.3%) -0.3	292 (57.3%) 0.3	0 (0.0%) 0.0	

**p<.01, *p<.05

1 : 養成校中心, 2 : 養成校・保育現場双方
3 : 保育現場中心, 4 : 保育者としてさほど必要と思わない

表2-1 幼稚園教諭と保育士がもつ専門的知識・技術の獲得時期に対する意識の違い
 <発達理解に関する項目>

		1	2	3	4	X ² (df=3)
1: 乳児期の発達の理解	幼稚園	212(52.6%)	135 (34.0%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	29.87***
	調整済み残差	5.4	-5.2	-1.3	0.0	
	保育所	191 (47.4%)	262 (56.8%)	7 (77.8%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-5.4	5.2	1.3	0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
2: 幼児期の発達の理解	幼稚園	190 (49.9%)	158 (37.4%)	2 (22.2%)	28.6%	13.22**
	調整済み残差	3.6	-3.5	-0.8	0.0	
	保育所	191 (50.1%)	264 (62.6%)	5 (71.4%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-3.6	3.5	0.8	0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
3: 学童期以降の発達の理解	幼稚園	213 (50.6%)	125 (36.4%)	10 (32.3%)	2 (13.3%)	22.73***
	調整済み残差	4.4	-3.3	-1.3	-2.4	
	保育所	208 (49.4%)	218 (63.6%)	21 (67.6%)	13 (86.7%)	
	調整済み残差	-4.4	3.3	1.3	2.4	
<保育にかかわる基礎的事項>						
		1	2	3	4	X ² (df=3)
4: 保育者の役割と倫理的理解	幼稚園	207 (46.4%)	138 (39.7%)	5 (29.4%)	0 (0.0%)	4.98*
	調整済み残差	2.1	-1.7	-1.2	0.0	
	保育所	239 (53.6%)	204 (60.3%)	12 (70.6%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-2.1	1.7	1.2	0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
5: 子どもの権利擁護の理解	幼稚園	244 (47.4%)	99 (35.9%)	6 (35.3%)	1 (100%)	11.45*
	調整済み残差	3.1	-3.1	-0.7	1.1	
	保育所	271 (52.6%)	177 (38.6%)	11 (64.7%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-3.1	3.1	0.7	-1.1	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
6: 保育所における保育の意義と制度的位置づけの理解	幼稚園	258 (49.0%)	83 (32.2%)	5 (22.7%)	0 (0.0%)	25.21***
	調整済み残差	4.8	-4.3	-1.9	1.2	
	保育所	268 (51.0%)	175 (67.8%)	17 (77.3%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-4.8	4.3	1.9	-1.2	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
7: 幼稚園における保育の意義と制度的位置づけの理解	幼稚園	245 (47.0%)	99 (37.6%)	5 (23.8%)	1 (50.0%)	9.65*
	調整済み残差	2.8	-2.3	-1.8	0.2	
	保育所	276 (53.0%)	164 (62.4%)	16 (76.2%)	1 (50.0%)	
	調整済み残差	-2.8	2.3	1.8	-0.2	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
8: 学校教育の制度についての理解	幼稚園	274 (47.1%)	70 (36.5%)	4 (20.0%)	1 (8.3%)	17.45**
	調整済み残差	3.5	-2.2	-2.1	-2.5	
	保育所	308 (52.9%)	122 (63.5%)	16 (80.0%)	11 (91.7%)	
	調整済み残差	-3.5	2.2	2.1	2.5	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
9: 保育所保育指針における保育の基本についての理解	幼稚園	257 (48.4%)	87 (32.7%)	3 (27.3%)	0 (0.0%)	18.93**
	調整済み残差	4.3	-4.1	-1.1	0.0	
	保育所	274 (51.6%)	179 (67.3%)	8 (72.7%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-4.3	4.1	1.1	0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
10: 幼稚園教育要領における保育の基本についての理解	幼稚園	251 (46.9%)	95 (36.7%)	2 (18.2%)	0 (0.0%)	10.30**
	調整済み残差	3.0	-2.6	-1.7	0.0	
	保育所	284 (53.1%)	164 (63.3%)	9 (81.8%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-3.0	2.6	1.7	0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
11: 保育・幼児教育の歴史の変遷についての理解	幼稚園	288 (45.9%)	50 (33.1%)	3 (18.8%)	9 (64.3%)	14.59**
	調整済み残差	2.8	-2.8	-2.0	1.6	
	保育所	339 (54.1%)	101 (66.9%)	13 (81.3%)	5 (35.7%)	
	調整済み残差	-2.8	2.8	2.0	-1.6	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
12: 子どもを取り巻く社会状況と今日的課題の理解	幼稚園	129 (44.2%)	198 (44.3%)	23 (34.8%)	0 (0.0%)	2.06
	調整済み残差	0.4	0.4	-1.4	0.0	
	保育所	163 (55.8%)	56.2%	43 (65.2%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-0.4	-0.4	1.4	0.0	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
13: 現在の保育・教育や福祉の政策の理解	幼稚園	154 (44.0%)	178 (44.5%)	17 (22.8%)	1 (50.0%)	5.38
	調整済み残差	0.4	0.8	-2.3	0.2	
	保育所	196 (56.0%)	222 (55.5%)	42 (71.2%)	1 (50.0%)	
	調整済み残差	-0.4	-0.8	2.3	-0.2	
		1	2	3	4	X ² (df=3)
14: 国内外のさまざまな保育・幼児教育の取組の理解	幼稚園	205 (47.2%)	121 (38.5%)	17 (35.4%)	6 (46.2%)	6.90
	調整済み残差	2.5	-2.1	-1.1	0.2	
	保育所	229 (52.8%)	193 (61.5%)	31 (64.6%)	7 (53.8%)	
	調整済み残差	-2.5	2.1	1.1	-0.2	

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1: 養成校中心, 2: 養成校・保育現場双方
 3: 保育現場中心, 4: 保育者としてさほど必要と思わない

表2-2 <子どもの健康と生活に関する項目>

		1	2	3	4	X ² (df=3)
15: 一人一人の子どもの食欲や睡眠などの生理的欲求を読み取り, 満たす	幼稚園	24 (68.6%)	211 (43.0%)	108 (39.0%)	4 (80.0%)	13.95**
	調整済み残差	3.1	0.0	-1.6	1.7	
	保育所	11 (31.4%)	280 (57.0%)	169 (61.0%)	1 (20.0%)	
	調整済み残差	-3.1	0.0	1.6	-1.7	
16: 保育における衛生・安全管理の理解	幼稚園	68 (51.5%)	238 (42.3%)	42 (36.5%)	0 (0.0%)	5.97
	調整済み残差	2.2	-0.6	-1.5	0.0	
	保育所	64 (48.5%)	324 (57.5%)	73 (63.5%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-2.2	0.6	1.5	0.0	
17: 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動の意義の理解	幼稚園	11 (97.5%)	218 (41.8%)	20 (31.7%)	1 (100%)	8.30*
	調整済み残差	2.1	-1.0	-1.9	1.1	
	保育所	115 (50.9%)	303 (58.2%)	43 (68.3%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-2.1	1.0	1.9	0.0%	
18: 子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境整備を行う	幼稚園	47 (56.0%)	241 (42.1%)	61 (39.9%)	1 (100%)	7.84*
	調整済み残差	2.5	-1.0	-0.9	1.1	
	保育所	37 (44.0%)	331 (57.9%)	92 (60.1%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-2.5	1.0	0.9	-1.1%	
19: 保育における救急時の対応の理解	幼稚園	98 (54.4%)	224 (42.0%)	28 (28.6%)	0 (0.0%)	18.13***
	調整済み残差	3.5	-0.9	-3.1	0.0	
	保育所	82 (45.6%)	309 (58%)	70 (71.4%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-3.5	0.9	3.1	0.0	
20: 子どもの疾病とその予防と対応の理解	幼稚園	122 (52.1)	209 (40.5%)	19 (31.1%)	0 (0.0%)	12.76**
	調整済み残差	3.3	-2.0	-2.0	0.0	
	保育所	112 (47.9%)	307 (59.5%)	42 (68.9%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-3.3	2.0	2.0	0.0	
21: 地域保健活動の理解	幼稚園	142 (51.8%)	161 (41.3%)	40 (28.8%)	7 (87.5%)	27.08***
	調整済み残差	3.6	-1.0	-3.8	2.5	
	保育所	132 (48.2%)	229 (58.7%)	99 (71.2%)	1 (12.5%)	
	調整済み残差	-3.6	1.0	3.8	-2.5	
22: 子どもの心身の発達と食育との関連性の理解	幼稚園	158 (54.1%)	180 (39.0%)	12 (20.7%)	0 (0.0%)	19.39***
	調整済み残差	4.7	-2.7	-3.6	0.0	
	保育所	134 (45.9%)	281 (61.0%)	46 (79.3%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-4.7	2.7	3.6	0.0	
23: 食育の意義や栄養に関する基本的事項の理解	幼稚園	187 (52.1%)	154 (38.2%)	8 (16.7%)	1 (100%)	30.74***
	調整済み残差	4.6	-2.8	-3.8	1.1	
	保育所	172 (47.9%)	249 (61.8%)	40 (83.3%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-4.6	2.8	3.8	-1.1	
24: 特別な配慮を要する子どもの食と栄養の理解	幼稚園	120 (53.1%)	198 (41.0%)	30 (30.0%)	2 (100%)	19.72***
	調整済み残差	3.6	-1.5	-2.8	1.6	
	保育所	106 (46.9%)	285 (59.0%)	70 (70.0%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-3.6	1.5	2.8	-1.6	
<保育内容に関する項目>						
		1	2	3	4	X ² (df=3)
25: 養護と教育が一体となった総合的保育を展開していくための判断力	幼稚園	51 (50.0%)	236 (43.5%)	62 (38.0%)	1 (33.3%)	3.83
	調整済み残差	1.5	0.3	-1.5	-0.3	
	保育所	51 (50.0%)	307 (56.5%)	101 (62.0%)	2 (66.7%)	
	調整済み残差	-1.5	-0.3	1.5	0.3	
26: 保育の目標, 子どもの発達, 保育の内容を関連づけた保育実践	幼稚園	31 (59.6%)	229 (42.6%)	90 (40.7%)	0 (0.0%)	6.35*
	調整済み残差	2.5	-0.5	-0.9	0.0	
	保育所	21 (40.4%)	309 (57.4%)	131 (59.3%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-2.5	0.5	0.9	0.0	
27: 子どもの興味・関心や計画に基づいた環境の構成	幼稚園	21 (43.8%)	231 (44.5%)	98 (40.2%)	0 (0.0%)	1.28
	調整済み残差	0.1	1.0	-1.1	0.0	
	保育所	27 (56.2%)	288 (55.5%)	146 (59.8%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-0.1	-1.0	1.1	0.0	
28: 保育の内容を理解し, 子どもの遊びを豊かにするために必要な技術の習得	幼稚園	46 (48.4%)	236 (41.9%)	68 (44.4%)	0 (0.0%)	1.53
	調整済み残差	1.1	-1.1	0.4	0.0	
	保育所	49 (51.6%)	327 (58.1%)	85 (55.6%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-1.1	1.1	-0.4	0.0	
29: 子どもの発達を5領域の観点から捉え, 保育内容に具体的に結びつけ考える	幼稚園	61 (52.6%)	251 (42.3%)	38 (37.3%)	0 (0.0%)	5.82
	調整済み残差	2.2	-0.8	-1.3	0.0	
	保育所	55 (47.4%)	342 (57.7%)	64 (62.7%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-2.2	0.8	1.3	0.0	
30: 身体, 音楽, 造形, 言葉等の表現活動に関する豊かな感性	幼稚園	119 (47.2%)	217 (42.2%)	14 (32.6%)	0 (0.0%)	4.61
	調整済み残差	1.5	-0.8	-1.4	-0.9	
	保育所	133 (52.8%)	297 (57.8%)	29 (67.4%)	1 (100%)	
	調整済み残差	-1.5	0.8	1.4	0.9	
31: 身体, 音楽, 造形, 言葉等の表現活動に関する技術の習得	幼稚園	113 (45.4%)	221 (42.6%)	16 (37.2%)	0 (0.0%)	1.19
	調整済み残差	0.9	-0.4	-0.8	0.0	
	保育所	136 (54.6%)	298 (57.4%)	27 (62.8%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-0.9	0.4	0.8	0.0	
32: 身体, 音楽, 造形, 言葉等の表現活動にかかわる教材などを子どもの発達に合わせて作成・活用	幼稚園	38 (39.2%)	262 (43.8%)	49 (42.6%)	1 (100%)	2.06
	調整済み残差	-0.8	0.6	-0.1	1.1	
	保育所	59 (60.8%)	336 (56.2%)	66 (57.4)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	0.8	-0.6	0.1	-1.1	
33: 身体, 音楽, 造形, 言葉等の表現活動の指導方法の習得	幼稚園	77 (47.2%)	233 (43.5%)	40 (36.0%)	0 (0.0%)	3.42
	調整済み残差	1.2	0.2	-1.6	0.0	
	保育所	52.8%	303 (56.5%)	71 (64.0%)	0 (0.0%)	
	調整済み残差	-1.2	-0.2	1.6	0.0	

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1: 養成校中心, 2: 養成校・保育現場双方
3: 保育現場中心, 4: 保育者としてさほど必要と思わない

表2-3 <計画・評価に関する項目>

		1	2	3	4	X ² (df=3)
34:教育課程・保育課程の編成とそれに基づく指導計画の意義の理解	幼稚園	160 (47.8%)	159 (39.2%)	29 (43.3%)	2 (100%)	8.17*
	調整済み残差	2.2	-2.3	0.0	1.6	
	保育所	175 (52.2%)	247 (60.8%)	38 (56.7%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-2.2	2.3	0.0	-1.6	
35:子どもの発達過程をふまえた観察・記録	幼稚園	63 (45.0%)	236 (42.4%)	51 (44.7%)	0 (0.0%)	0.42
	調整済み残差	0.5	-0.6	0.5	0.0	
	保育所	77 (55.0%)	320 (57.6%)	63 (55.3%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-0.5	0.6	-0.5	0.0	
36:子どもの集団の特徴をふまえた観察・記録	幼稚園	58 (45.7%)	231 (42.5%)	61 (43.9%)	0 (0.0%)	0.46
	調整済み残差	0.6	-0.6	0.2	0.0	
	保育所	69 (54.3%)	313 (57.5%)	78 (56.1%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-0.6	0.6	-0.2	0.0	
37:乳児の保育内容や方法に活かせる観察・記録	幼稚園	74 (52.1%)	223 (41.4%)	46 (37.7%)	4 (100%)	12.09**
	調整済み残差	2.4	-1.3	-1.3	2.3	
	保育所	68 (47.9%)	316 (58.6%)	76 (62.3%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-2.4	1.3	1.3	-2.3	
38:幼児の保育内容や方法に活かせる観察・記録	幼稚園	63 (48.5%)	238 (42.8%)	49 (39.2%)	0 (0.0%)	2.32
	調整済み残差	1.3	-0.3	-1.0	0.0	
	保育所	67 (51.4%)	318 (57.2%)	76 (60.8%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.3	0.3	1.0	0.0	
39:乳児の発達に応じた個別の指導計画の作成	幼稚園	68 (67.3)	208 (41.3%)	68 (34.2%)	3 (100%)	35.31***
	調整済み残差	5.3	-1.3	-2.9	2.0	
	保育所	33 (32.7)	296 (58.7%)	131 (65.8)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-5.3	1.3	2.9	-2.0	
40:幼児の発達に応じた指導計画の作成	幼稚園	57 (62.0%)	221 (41.5%)	71 (38.4%)	1 (100%)	16.92**
	調整済み残差	3.9	-1.3	-1.5	1.1	
	保育所	36 (38.0%)	228 (55.9%)	114 (61.6%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-3.9	1.3	1.5	-1.1	
41:指導計画に基づいた日々の実践	幼稚園	17 (45.9%)	200 (43.9%)	133 (41.8%)	0 (0.0%)	0.44
	調整済み残差	0.4	0.5	-0.6	0.0	
	保育所	20 (54.1%)	256 (56.1%)	185 (58.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-0.4	-0.5	0.6	0.0	
42:保育課程・教育課程の編成とそれに基づく指導計画の意義の理解	幼稚園	128 (46.7%)	188 (42.8%)	33 (34.0%)	1 (100%)	6.05
	調整済み残差	1.5	-0.2	-1.9	1.1	
	保育所	146 (53.7%)	251 (51.7%)	64 (66.0%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.5	0.2	1.9	0.0	
43:教育課程に基づいて長期の指導計画を作成	幼稚園	52 (48.6%)	220 (44.4%)	74 (36.6%)	3 (60.0%)	5.66
	調整済み残差	1.2	0.9	-2.1	0.8	
	保育所	55 (51.4%)	276 (55.6%)	128 (63.4%)	2 (40.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.2	-0.9	2.1	-0.8	
44:学級経営に関して必要な知識の理解	幼稚園	70 (40.5%)	206 (47.0%)	69 (37.9%)	5 (27.8%)	6.97
	調整済み残差	-0.8	2.4	-1.6	-1.3	
	保育所	103 (59.5%)	232 (53.0%)	113 (62.1%)	13 (72.2%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	0.8	-2.4	1.6	1.3	
45:P D C Aサイクルに基づく保育の改善の意義の理解	幼稚園	114 (48.3%)	178 (43.2%)	57 (35.6%)	1 (33.3%)	6.37
	調整済み残差	1.9	-2.1	-2.1	-0.3	
	保育所	122 (51.7%)	234 (56.8%)	103 (64.4%)	2 (66.7%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.9	2.1	2.1	0.3	
46:P D C Aサイクルに基づく、保育実践の振り返り、改善	幼稚園	49 (55.1%)	197 (43.7%)	103 (38.4%)	1 (33.3%)	7.73
	調整済み残差	2.4	0.3	-1.9	-0.3	
	保育所	40 (44.9%)	254 (56.3%)	165 (61.6%)	2 (66.7%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-2.4	-0.3	1.9	0.3	
47:カンファレンスによる事例検討に基づく子どもの理解	幼稚園	54 (59.3%)	180 (44.1%)	113 (36.8%)	1 (50.0%)	14.96*
	調整済み残差	3.3	0.6	-2.8	0.2	
	保育所	37 (40.7%)	228 (55.9%)	194 (63.2%)	1 (50.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-3.3	-0.6	2.8	-0.2	

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1:養成校中心, 2:養成校・保育現場双方

3:保育現場中心, 4:保育者としてさほど必要と思わない

表2-4 <特別の配慮が必要な子どもに関する項目>

		1	2	3	4	X ² (df=3)
48: 様々な障がいの種類や特徴の理解	幼稚園	165 (48.2%)	171 (40.2%)	14 (31.8%)	0 (0.0%)	7.40*
	調整済み残差	2.5	-1.8	-1.6	0.0	
	保育所	177 (51.8%)	254 (59.8%)	30 (68.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-2.5	1.8	1.6	0.0	
49: 統合保育における子どもの育ち合いの意義の理解	幼稚園	134 (46.9%)	192 (42.8%)	24 (32.0%)	0 (0.0%)	6.19
	調整済み残差	1.6	-0.3	-2.0	-0.9	
	保育所	152 (53.1%)	257 (57.2%)	51 (67.0%)	1 (100%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.6	0.3	2.0	0.9	
50: 障がい児の保育内容や方法に活かせる観察や記録	幼稚園	57 (48.3%)	241 (46.3%)	52 (30.2%)	0 (0.0%)	15.03**
	調整済み残差	1.2	2.4	-3.9	0.0	
	保育所	61 (51.7%)	280 (53.7%)	120 (69.8%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.2	-2.4	3.9	0.0	
51: 特別支援を必要とする子どもに配慮したクラスの指導計画を作成	幼稚園	37 (53.6%)	210 (45.5%)	103 (36.8%)	0 (0.0%)	8.71*
	調整済み残差	1.8	1.5	-2.7	0.0	
	保育所	32 (46.4%)	252 (54.5%)	177 (63.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.8	-1.5	2.7	0.0	
52: 特別な支援を必要とする子どもの個別の指導計画の作成	幼稚園	34 (55.7%)	203 (45.9%)	113 (36.8%)	0 (0.0%)	10.36**
	調整済み残差	2.1	1.7	-2.9	0.0	
	保育所	27 (44.3%)	239 (54.1%)	194 (63.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-2.1	-1.7	2.9	0.0	
53: 障がいの理解をふまえた子どもへの援助や環境構成	幼稚園	32 (51.6%)	230 (45.8%)	88 (35.8%)	0 (0.0%)	8.72*
	調整済み残差	1.4	1.9	-2.8	0.0	
	保育所	30 (48.4%)	272 (54.2%)	158 (64.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.4	-1.9	2.8	0.0	
54: 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携の理解	幼稚園	47 (46.5%)	203 (47.1%)	100 (35.8%)	0 (0.0%)	9.29*
	調整済み残差	0.7	2.4	-3.0	0.0	
	保育所	54 (53.5%)	228 (52.9%)	179 (64.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-0.7	-2.4	3.0	0.0	
55: 子どもにとっての過程の意義及び機能の理解	幼稚園	136 (50.9%)	172 (41.1%)	42 (33.3%)	0 (0.0%)	12.23**
	調整済み残差	3.1	-1.2	-2.4	0.0	
	保育所	131 (49.1%)	246 (58.9%)	84 (66.7%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-3.1	1.2	2.4	0.0	
56: 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援体制と関係機関との連携	幼稚園	94 (47.0%)	190 (44.8%)	63 (34.4%)	3 (100%)	11.31**
	調整済み残差	1.2	1.0	-2.7	2.0	
	保育所	106 (53.0%)	234 (55.2%)	120 (65.6%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.2	-1.0	2.7	-2.0	
57: ソーシャルワークの方法と記述についての理解	幼稚園	153 (50.7%)	161 (39.5%)	22 (26.8%)	14 (73.7%)	25.34***
	調整済み残差	3.3	-2.1	-3.1	2.7	
	保育所	149 (49.3%)	247 (60.5%)	60 (73.2%)	5 (26.3%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-3.3	2.1	3.1	-2.7	
58: 児童虐待への対応の理解	幼稚園	119 (46.7%)	208 (43.7%)	23 (29.1%)	0 (0.0%)	8.45*
	調整済み残差	1.4	0.4	-2.7	-0.9	
	保育所	136 (53.3%)	268 (56.3%)	56 (70.9%)	1 (100%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.4	-0.4	2.7	0.9	
59: 個々の状況に応じた保護者支援	幼稚園	28 (53.8%)	196 (46.0%)	126 (37.8%)	0 (0.0%)	7.68*
	調整済み残差	1.6	1.7	-2.6	0.0	
	保育所	24 (46.2%)	230 (54.0%)	207 (62.2%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.6	-1.7	2.6	0.0	
60: 子育て家庭に対する相談支援	幼稚園	19 (59.4%)	182 (48.1%)	149 (37.2%)	0 (0.0%)	13.15
	調整済み残差	1.9	2.7	-3.4	0.0	
	保育所	13 (40.6%)	196 (51.9%)	252 (62.8%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.9	-2.7	3.4	0.0	
61: 子育て家庭に対する情報・技術の提供	幼稚園	2172.4%)	172 (45.4%)	155 (38.7%)	2 (100%)	16.83**
	調整済み残差	3.2	1.2	-2.6	1.6	
	保育所	8 (27.6%)	207 (54.6%)	246 (61.3%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-3.2	-1.2	2.6	-1.6	
62: 関係機関との連携に際して必要な役割を担う	幼稚園	22 (61.1%)	142 (44.8%)	181 (40.5%)	5 (45.5%)	6.40
	調整済み残差	2.2	0.8	-1.7	0.2	
	保育所	14 (38.9%)	175 (55.2%)	266 (59.5%)	6 (54.5%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-2.2	-0.8	1.7	-0.2	
63: 小学校との連携に際して必要な役割を担う	幼稚園	16 (57.1%)	132 (44.7%)	199 (41.2%)	0 (0.0%)	3.87
	調整済み残差	1.5	0.7	-1.4	0.0	
	保育所	12 (42.9%)	163 (55.3%)	284 (58.8%)	0 (0.0%)	X ² (df=3)
	調整済み残差	-1.5	-0.7	1.4	0.0	

***p<.001, **p<.01, *p<.05

1: 養成校中心, 2: 養成校・保育現場双方

3: 保育現場中心, 4: 保育者としてさほど必要と思わない

育士は、養成校だけでなく保育経験を積むことを通して獲得すると考えている保育者が多いことが読み取れる。幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれが認められた。

(2)保育にかかわる基礎的事項(表2-1参照)

表2-1にみられるように、幼稚園教諭は「養成校中心」の割合が高く、保育士は「養成校・保育現場双方」の割合が高い。保育にかかわる基礎的事項について幼稚園教諭は、養成校で育て卒業するまでに獲得すると考えている保育者が多く、保育士は、養成校だけでなく保育経験を積むことを通して獲得すると考えている保育者が多いことが読み取れる。ここにも幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれが認められた。

(3)子どもの健康と生活(表2-2参照)

表2-2にみられるように、幼稚園教諭は「養成校中心」の割合が高く、保育士は「養成校・保育現場双方」の割合が高く、「保育現場中心」の割合も高い。子どもの健康と生活については、幼稚園教諭は、10項目のうち9項目において養成校で育て卒業するまでに獲得すると考えている保育者が多く、保育士は、養成校だけでなく保育経験を積むことを通して獲得すると考えている保育者や保育現場に出てから獲得されると考えている保育者が多いことが読み取れる。ここにも幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれが認められた。

(4)保育内容(表2-2参照)

表2-2にみられるように、幼稚園教諭においては「養成校中心」の割合が多かった項目は、「項目26:保育の目標、子どもの発達、保育の内容を関連づけて保育実践をする」1項目だけであり、幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれは認められなかった。

(5)計画・評価(表2-3参照)

表2-3にみられるように、幼稚園教諭は「養成校中心」の割合が高く、保育士は「養成校・保育現場双方」の割合が高く、「保育現場中心」の割合も高い。この結果より計画・評価について、幼稚園教諭は養成校で育て卒業するまでに獲得すると考えている保育者が多い。保育士は、養成校だけでなく保育経験を積むことを通して獲得すると考えている保育者や保育現場に出てから獲得されると考えている保育者が多いことが読み取れる。ここにも幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれが認められた。

(6)特別の配慮が必要な子ども(表2-4参照)

表2-4にみられるように、幼稚園教諭は「養成校中心」の割合が高く、保育士は「養成校・保育現場双方」の割合が高く、「保育現場中心」の割合も高い。特別の配慮が必要な子どもについて、幼稚園教諭は養成校で育て卒業するまでに獲得すると考えている保育者が多い。保育士は、養成校だけでなく保育経験を積むことを通して獲得すると考えている保育者や保育現場に出てから獲得されると考えている保育者が多いことが読み取

れる。ここにも幼稚園教諭と保育士の間で意識のずれが認められた。

IV 考察

1. 保育者としての態度の獲得について

保育者としての態度の獲得について、幼稚園教諭と保育士の意識差が顕著に現れているのは「7:保護者からの信頼を得ることができる」「17:保育者としての適切な行動規範を子どもに示すことができる」「21:身の回りのモノの特性を考慮して環境構成や援助を行うことができる」「24:子どもの目線に立って物事を考え、保育を行うことができる」の4項目であった。

保育所と幼稚園とではその目的や性格の違いから、保育所における児童、保護者、家庭等は幼稚園のそれらと比して多様で複雑な状況が想定できる。保育所は、延長保育、夜間保育、一時保育、子育て支援事業等の特別保育事業を実施し、地域や家庭の様々なニーズに対応しなければならない。幼稚園も地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を担い、家庭および地域への支援に努めるものとされる。しかしながら、入所・入園の条件や手続きの違い、保育時間、保育の対象年齢などを見ても、保育所保育における対応の幅が広く、多岐にわたることは明らかである。

小原ら(2013)は、保育者の保育観について保育所と幼稚園を比較した研究において、保育士が家庭・保護者との関係においてより困難さを感じている実態を明らかにしている。保育士が、多様でより複雑な家庭状況や各家庭のニーズを考慮した保護者対応が求められるという背景から、保護者からの信頼を得る対応力は現場で培われるとする保育士が多いと推察できる。

他の3項目についても、乳児と幼児とでは園内の施設環境も異なるなか、教育と養護の一体性を重視しながら生活経験の質を考慮し、一人ひとりの子どもの個人差に応じたよりよい保育をするために、個別的な現場経験の積み重ねから得た学びを大事にしている結果と思われる。

2. 専門的知識・技術の獲得について

櫻木ら(2014)では専門的知識・技術の獲得時期について、「発達理解」「保育にかかわる基礎的な事項」など基本的なことは養成校で学ぶことが期待されているのに対して、「子どもの健康・生活」「保育内容」「評価」に関することは養成校で学んだ知識・技術を土台に保育現場で育てていく、特別な配慮が必要な子どもに関することについては保育現場が中心となって育てていくという保育者の意識が確認されている。

本研究においては、幼稚園教諭と保育士との意識の違いについて検討した。結果で示したように、「発達理解」「保育にかかわる基礎的な事項」に関して、幼稚園教諭は養成校における学びに期待しているのに対して、保育士は、養成校に期待はするもののその土台の上に保育現場で育てていくと考える傾向が見

られた。今回の結果だけでは断言することはできないが、その理由の一つとして養成校卒業後の勤務体制、研修体制、組織運営の相違、幼稚園と保育所における保育の活動の相違などの影響が考えられる。卒業直後の保育士を保育所がどのように見ているかを訪問調査した結果「短期大学卒業直後の保育士は、複数の保育士が担任となる3歳未満児クラスに配属され、経験年数の多い保育士の保育や保護者対応を見て学ぶことができるようにしている」と回答した保育所が多いことが報告されている(佐藤ら, 2011)。これによって、保育所では新人保育士を採用後に育てていく意識が高いことが推察される。幼稚園でも経験のある教諭によってサポートする体制を取り入れ、新任教諭を保育現場で育てていく意識はあることが報告されているものの、幼稚園では着任1年目から学級担任になることがあり、一人で学級経営を任される園も多いことが知られている。一般的には低年齢児を受け入れる保育所のほうが全体の保育者数が多いため、保育者の経験年数を考慮した配置がしやすいことも考えられる。幼稚園教諭と保育士の人数の違いや施設の規模などについても検討していく必要があるが、今回は詳細な分析をしていないため、今後の課題としたい。

保育の活動に関しては、実習で学生がとらえた幼稚園と保育所の相違点をまとめた報告(栗原ら, 2007)によると、幼稚園が「教育」の場であるのに対し、保育所が「生活」の場であるということ、実感をもって学んだ、と約4割の学生が答えている。幼稚園では製作や文字などの指導が行われ、ピアノも多用されていた。行事も多くそれに向けての活動があったことなどが理由として挙げられている。これらは、学生のとらえた相違点であり、保育者の意識とは異なるものであるが、幼稚園では早い段階から基本的な知識・技術を身に付けた即戦力としての能力が期待されていることが推察される。一方保育所では、長時間に及ぶ保育のなかで乳幼児の生活援助も多岐にわたる。養成校の学びだけでは網羅しきれない多様な状況があることが予想されるため、保育現場で積み上げる経験を重視する傾向にあるのではないかと考えられる。

「子どもの健康・生活」については、幼稚園教諭は発達理解、保育にかかわる基礎的な事項と同様に養成校への期待が大きく、それに対して保育士は保育現場で育てると考える傾向が強い。これらの傾向を顕著に示す例として子どもの疾病と予防・対応、救急の対応、地域保健活動、および食育などがある。これは保育所に乳児が入所していることと関連があると考えられる。乳児は環境の変化に敏感なうえに病気にかかりやすい。したがって、保育士が子どもの健康と生活に関することにおいて、保育現場が中心となって育てていく意識が高くなると考えられる。

「保育内容」に関しては、1項目を除いて幼稚園教諭と保育士の間に相違は見られず、養成校における学びを土台に保育現場で育てると意識が共通していた。「26. 保育の目標、子

どもの発達、保育内容を関連づけた保育実践」のみ、幼稚園教諭において養成校の学びに期待する傾向が見られた。平成10年に幼稚園教育要領が改正され、幼稚園の目標は上位の法律である学校教育法に記載されることになり、幼稚園が学校教育のスタートとして重要な役割を担うことが強調された(無藤ら, 2008)。保育所については、教育施設である幼稚園に対して福祉施設であるという行政的な区分が公然化してきたことによって、教育的な内容である保育の目標、内容、方法について曖昧にされる傾向があった(小川, 2006)。すなわち、幼稚園教諭はこれまで以上に教育の目的・目標を意識して教育に取り組むことになったことを示すものではないかと考えられる。

「計画・評価」では、子どもの発達過程や子ども集団の特徴をふまえた観察・記録、指導計画に基づく実践、保育の省察に関する項目において幼稚園教諭と保育士間の意識差は認められなかったが、残りの5項目について、幼稚園教諭は養成校の学びに期待し、保育士は現場で育てていく意識が高いことが認められた。

「34. 教育課程・保育課程の編成とそれに基づく指導計画の意義についての理解」について、保育士は養成校で土台を作り保育現場で育てていくという意識が高かった。保育課程はすべての在所児童の生活全体をとらえて編成されなければならない。養成校で学んだ保育課程の基本的な理解の土台の上に、卒業後に勤務した保育所で編成された保育課程に基づいた具体的な指導計画と、そこから展開される多様な対象への多様なニーズに応える実際の支援とが結びついて初めて理解できると考えられている結果ではないだろうか。さらに「37. 乳児の保育内容や方法に活かせる観察・記録」「39. 乳児の発達に応じた個別の指導計画の作成」「47. カンファレンスによる事例検討に基づいた子ども理解」については、保育士は保育現場中心に育てると意識が高かった。これらは個別の支援につながる専門性であり、このような個別的事案についても、実際に勤務して経験しなければ理解できないと考えられている結果と思われる。

一方、これら4項目と「40. 幼児の発達に応じた指導計画の作成」について幼稚園教諭は現場の学びに期待していることが認められた。これは保育の対象年齢の違いや養成校卒業後の勤務体制の違いに起因すると思われ、幼稚園のほうがより即戦力を求められることによると推察できる。

「特別な配慮を必要とする子ども」については、気になる子どもも含めてこれまで多くの研究が報告されており、保育現場において切実な問題になっていることやその支援に困難さを伴うことを浮き彫りにしている。本調査では、多くの項目において幼稚園教諭は養成校に期待している傾向が強く、保育士は保育現場中心で育てていくという傾向が見られた。

久保山ら(2009)によると、保育者から見た「気になる子ども」とは、幼稚園教諭は子どもの発達状況を気にする傾向があ

り、保育士は子どもの日常生活における生活基本動作や家庭環境等を気にする傾向があるとしている。また、「気になる子ども」がいる場合の保育上の課題として、幼稚園教諭は学級経営や他児との関係を重視する傾向があるとしている。幼稚園教諭のそうした傾向は、学級経営を一人で任されることが多く、一人で様々な幼児への指導が求められることが考えられる。そのために、様々な障がいの種類や特徴の理解をはじめとする基本的事項の理解は、養成校でしっかりと土台を作っておくことが期待されていると考えられる。一方、保育士は、長時間の保育の中で一人ひとりの生活経験に目を向ける傾向があり、個別的な現場での学びを重視していると考えられる。

今回の結果にみられた保育の専門性に関する幼稚園教諭と保育士の意識の違いについて、今後、大学のカリキュラムの見直しや授業改善に繋げる一資料としたい。

引用文献

- Haberman, S.J. (1974). *The analysis of frequency data*. Chicago, IL: University of Chicago Press.
- 石黒万里子.(2009). 保育者の専門性に関する一考察:保育者に固有の「知識」と「判断」. 中村学園大学・中村学園短期大学部研究紀要, 41, 1-6.
- 公益社団法人私立大学情報教育協会編.(2014). 私立大学教員の授業改善白書. 事業活動報告, 1, 40-55.
- 久保山茂樹, 齊藤由美子, 西牧謙吾, 當島茂登, 藤井茂樹, 滝川国芳.(2009). 「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査:幼稚園・保育所への機関支援で踏まえるべき視点の提言. 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 36, 55-76.
- 栗原泰子・野尻裕子.(2007) 幼稚園実習の教授内容に関する一考察:学生が把握した幼稚園と保育所の違いからその課題を探る. 川村学園女子大学研究紀要, 18 (2), 95-197.
- 無藤隆・民秋言.(2008). ここが変わったNEW幼稚園教育要領・保育所保育指針ガイドブック. フレーベル館, 7-4.
- 日本発達心理学会.(2000). 心理学・倫理ガイドブック:リサーチと臨床. 有斐閣, 154.
- 小川博久.(2006). 保育原理. 同文書院, 106-138.
- 小川博久.(2011). 「保育」の専門性. 保育学研究, 49 (1), 100-110.
- 小原敏郎・入江礼子・白川佳子・上垣伸子・酒井幸子・内藤知美・吉村香.(2013). 保育者の保育観に関する研究:保育経験年数, 保育所・幼稚園の違いに着目して. 保育士養成研究, 31, 57-66.
- 大津泰子.(2010). 保育士の専門性を高めるための課題:保育士養成の動向から. 近畿大学九州短期大学研究紀要, 40, 13-26.
- 櫻木真智子・中野真紀子・藪中征代・塚本美知子.(2014). 保育者の専門性に関する研究:専門的知識・技術の獲得について. 聖徳の教えるむ技法, 9, 143-159.
- 佐藤弘毅.(2011). 短期大学における今後の役割・機能に関する調査研究. 文部科学省平成21-22年度先導的大学の改革推進委託事業成果報告書, 95-197.
- 全国社会福祉協議会・全国保育士会編.(2007). 専門性を深める. 全国保育士会研究紀要, 17.
- 全国保育士養成協議会.(2008). 保育士養成システムのパラダイム転換:成長し続けるために養成校でおさえておきたいこと. 保育士養成資料集, 26, 97-99.
- 全国保育士養成協議会.(2013). 「保育者の専門性についての調査」:保育者の成長と専門性の獲得. 平成24年度専門委員会課題研究報告書, 1, 1-25.
- 全国保育士養成協議会.(2014). 「保育者の専門性についての調査」:養成課程から現場へとつながる保育者の専門性の育ちのプロセスと専門性向上のための取り組み. 平成25年度専門委員会課題研究報告書, 2, 26-130.